

郡山市内には、放射線量の高い所が、スポット的にたくさんあります。原発事故直後にもたらされた汚染だけではなく、時の経過と共に新たに汚染されている場所もあります。

1月の中旬頃から、除染作業を頻繁に目にするようになりました。先日来、私の住むマンション付近でも除染が続いています。道路や駐車場の電動ブラシによる洗浄、側溝にたまった泥の吸引や、道路の窪みに堆積した土の掻き出し作業です。作業員は皆さん防護服に身を包んでいます。マスクもしないまま通りかかった私は、言いようのない不気味さと心細さに襲われ、思わずマフラーで口を覆い、コートの前を重ね合わせて足早に通り過ぎました。この時、作業をしている傍を幼児連れの母親が通り抜けました。散歩途中の楽しげな保育園児を連れて、保育士がゆっくり歩いていました。みな、何事もないように通り過ぎて行きますが、心中穏やかなはずがありません。

原発問題プロジェクトでは、幼稚園の保護者を対象にアンケート調査をしたことがあります。「放射能のことを日常的に気にしていますか」という問いに、「どうしようもないので、意図的に気にしないようにしている」という回答が少なからずありました。これが、多くの人の本音なのだと思います。諦めているのです。また、恒常的な放射線量の高さに慣れてしまっている私たちがいることも事実です。恐ろしいことです。

福島第一原発から直線で約70km離れている郡山市で、しかも4年経った今でも、日常的な除染が必要です。郡山市の他にも、延々と除染をし続けなければならない市町村があります。除染が出来ない広大な山あいがあります。そこに不安と苦しみを抱えて生活している人がいます。それにも関わらず、原発事故の検証もできていないまま再稼働への動きが加速しています。現在、12原子力発電所の25機が原子力規制委員会によって審査されています。更に1月20日には、世界で初めてMOX燃料だけを使う、青森県に建設中の大間原発に対して審査が開始されました。原発は日本各地にあります。知らない間に再稼働が現実のものとならないよう、それぞれの地域で大きな声で「否」と言い続けて行かなければならないのではないかと思います。

(原発と放射能に関する特別問題プロジェクト 池住 圭)

